



コミュニティ だより

# あけ保の

平成 27 年 10 月 31 日現在	
人口	15,670人
男	7,787人
女	7,883人
世帯数	5,620戸



九月十三日(日)、六合コミュニティ委員会主催の『敬老会』を開催しました。

六合地区には七十五歳以上の高齢者が一五四三人いらっしゃいます。当日は約二百人の皆さんが参加してくださいました。

大久保コミュニティ委員会会長の挨拶では、島田市の健康寿命が男性七十一歳、女性七十四歳であると紹介があり、参加の皆さんにも健康寿命を伸ばして頂きたいとのお話がありました。

来賓で見えた染谷島田市長は、お祝いの言葉の中でこんなお話をされました。

島田市最年長の松浦さんは、常に小さな事でも「ありがとうね」と言い、この言葉は若い人を育てるとおっしゃるのだそうです。

島田市には百歳以上の方が九十五人お住まいで、なんと九十九歳の方が五十二人いらっしゃるの、来年は一挙に百歳以上の市民が一五〇人近くになるそうです。

染谷市長は去年に引き続き自慢の喉で五十年前のヒット曲、マヒナスターズの「愛して愛して愛しちゃったのよ」を歌って会場を沸かせてくれました。式の後はアトラクションです。

1. 六合第一保育園の園児の皆

さんの合唱「おどるポンポコリン」可愛く元気にできました。

2. コールシクラメンの女性合唱団です。女性らしい優しい歌声に皆さん聞き惚れ、「ふるさと」では皆さんで一緒に合唱しました。

3. 六合小学校の生徒による組体操の演技があり、練習の成果を見せてくれました。

4. ハワイアンフラの皆さんによるフラダンス、ワイキキの波打ち際にいる気分でした。

5. 六合東小学校の生徒さんは、合唱 歌って踊っての「ソーラン節」は楽しい賑やかな時間を過ごせました。

6. 六合中学校の吹奏楽演奏では、「きよしのズンドコ節」の際皆さんの手拍子で盛りあがっていました。

『敬老』とは、多年にわたり社会に貢献してきた人を敬う、尊敬することです。

桜井県議が「老人の記憶力は変わらない。思い出す時間が掛るだけだ」という言葉が印象に残りました。





# 年におもう

島田市は、平成26年(2014年)に「島田市平和都市宣言」を制定

## 島田空襲について

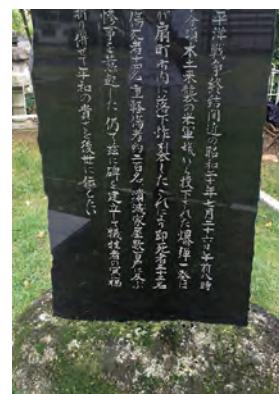
島田市に1945年7月26日、米国の爆弾が投下された。これは、原子爆弾投下の実践訓練として行われた作戦のひとつ。使用された爆弾はパンプキン爆弾と呼ばれるもので、後に長崎に投下されたファットマン型爆弾を模した形状の特殊な爆弾(模擬原爆)である。1945年7月から、アメリカ陸軍航空軍のB-29爆撃機によって、日本各地に訓練攻撃として投下が行われていた。アメリカ軍は、新潟市を原爆による攻撃目標の一つとして検討しており、その訓練用目標として富山市の軍需工場を選定していた。しかし、天候不良のため予定通り実行できず、代わりの目標として島田市などにパンプキン爆弾が投下された。



島田に投下時の写真



投下された爆弾の模型



昭和20年7月26日午前8時40分、島田市扇町に落下炸裂した爆弾により、即死者33名、重傷死者14名、重軽傷者約200名、消滅家屋数100戸の大惨事を記す石碑が普門院境内に建立されている



六合地区では、戦没者慰霊碑が道悦八幡宮境内に建立されています。この碑は明治以降の戦争において亡くなられた方々、古くは明治10年の西南の役から太平洋戦争の戦没者まで256名の名前が刻まれています。

戦後70年という節目の今年、六合地区初の戦没者はわかるのだろうかと言族会に聞きましたが、資料的には不明確である様で地区の戦没者墓石を少し探してみたところ、明治10年3月西南の役・熊本県八代郡での戦闘で負傷死したことが刻まれていました。

今ではほとんど忘れられているこの戦いは、

西郷隆盛率いる薩摩軍と政府軍(官軍)との戦いで日本最後の内戦と言われ両軍で1万数千人ほどの犠牲者があり、最も激しい戦いと言われていた田原坂の近くに現在資料館ができています。

資料館の記述には現在の赤十字社がこの戦いの中で、どちらの軍の負傷者も分け隔てなく看護した人たちが草分けであると書かれています。

このようなことを思いながら、多くの犠牲のうえに今日の平和と繁栄があることをおもう歴史をひも解いてみるのもいいのではないのでしょうか。

▲西南の役から第一次世界大戦までの六合地域出身の戦没者の英霊を祀る忠魂碑が大正5年26日に建立されている。



# 終戦70年の

戦時中私たちの住んでいる島田市ではこのようなことがおこなわれていました

## 電波兵器実験所について

太平洋戦争末期において旧海軍はマグネロン（電磁管）が発する電磁波（極超短波）を利用した強力電波兵器を開発し、飛来するB29に向けて電磁波を照射し、打ち落とす計画を立てていました（Z研究）。

初期のZ兵器の研究は、レーダー開発と共に東京三鷹の「日本無線」で始められましたが、専門の実験場が必要になり、大井川流域の島田市に決定しました。理由は①大井川水系の豊富な電力が可能②東京から日帰りが可能、の2点でした。島田に実験所（現在の東海特殊加工製紙）が昭和18年に開設され終戦まで研究を続けていましたが、島田でも空襲が激しくなると研究施設の疎開が計画され、金谷牛尾山鼻地区に実験所が建設されました。終戦時アメリカ軍に渡した「引渡目録」の中に史料として記録されています。



発掘前写真

発掘調査写真

(中日トピックス昭和25年1月号)



発振室

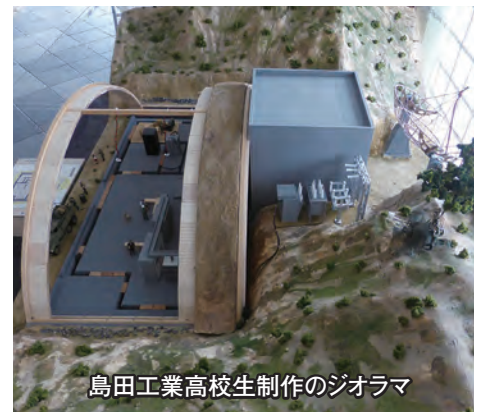
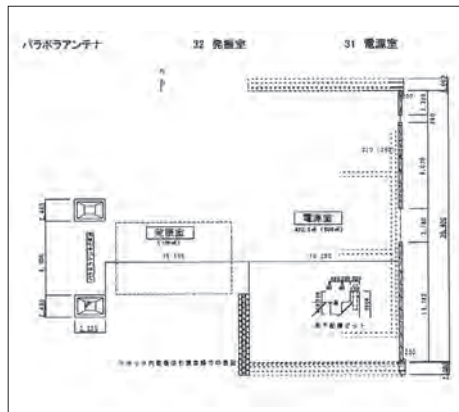
(中日トピックス昭和25年1月号)



昭和25年新聞掲載された写真



発掘された牛尾実験所の基礎



島田工業高校生制作のジオラマ

## 戦没者追悼式典

平成27年10月11日

本年は悪天候で六合公民館にて追悼式が執り行われました。戦争の記憶が薄れていく中、戦後70年は1つの節目で来賓・遺族会代表の追悼の言葉は戦後70年を思う言葉があり、全国民の8割が戦後世代となる中、戦争の悲惨さを伝えていくのが難しくなった旨を遺族会長よりお話しされました。今後たとえ大戦を知らない世代になっても80年後、100年後までコミュニティ委員会がこうした式典を続けていくことで平和の尊さを伝えていきたいものです。





# 夏まつり

八月二日(日)朝からお天気にも恵まれ、祭り日和の一日がスタート。

河村実行委員長をはじめ各実行委員での準備作業が完了後、いよいよ夏祭りが開催。

ボランティア活動での中学生が大活躍の「焼きそば」、「綿菓子」、「ヨーヨー」、「フランクフルト」、「ポップコーン」が「き氷」・各売店 大盛況の中、ステージにおいては、各団体でのアトラクションを披露。例年恒例の餅投げの時点には、会場一杯の人だかりでピークを迎えた夏祭りでした。





# 六合地区文化祭

六合地区文化祭が十月二十四日(土)、二十五日(日)の両日 六合公民館「ロクテイ」及び六合小学校体育館で開催されました。

ロクテイでは、写真、陶芸品等・の展示や島田工業高校の電子機械化と都市工学科による製作品の展示と防災教育での実践活動記録の報告がありました。

また、茶道教室や喫茶室も設置され、健康講座やスタンプリーも実施されました。

体育館では芸能発表として、やよい琴の会、六合小大正琴クラブ、六合第一保育園(リズム体操)、六合第二保育園(和太鼓)、六合幼稚園(リズム)、Dance School Shiny Eyes (キッズダンス)、若栄会(古典・新舞踊)、吟剣詩舞道正規流(詩舞)、ブラスパティナー(管楽器)、六合中吹奏楽部(演奏)の演奏や発表があり、沢山の観衆と拍手で盛り上がりました。





# 「ファミリーバドミントン講習会」開催 2015年7月



今年二月の講習会に続いてファミリーバドミントンの講習会が七月四日、六合小学校体育館を会場として行われました。島田市スポーツ推進委員の方々の指導により、およそ五十名の参加者が集まって午後七時より開催しました。開始にあたり、委員会の方からルール等の説明を受けた後、十分な時間をかけて準備体操が行われました。

その後、三ヶ所に設けられたコートに受講者が振り分けられ、ルールにのっとり、一つのコートにそれぞれ三名ずつが位置について試合が始まりました。小学生から年配の方までの男女が入り乱れての対戦。初めて体験する人も多かったことから、何度も空振りする人やつまづいて転がる人がいて、どうなる事かと心配しましたが、時間が経過するにつれて、指導の効果に加え、慣れて来た事もあって、だんだん上達が見えてきました。そのうち、白熱の様相を見せてくれるグループも出てきて、楽しく見学させて頂きました。最高に盛り上がりつつあったところで時間の都合から、講習会も終了せざるを得ないのが少し残念でした。長引く梅雨の鬱陶しさを忘れることの出来たひと時でした。

# 健康ウォーキング 2015年10月



十月四日(日)天気は快晴 六合コミュニティウォーキング大会が開催されました。ロクティを9時に出発し、六合消防署の前を通り、第五小学校を左手に旭町公民館へとぬけます。脇の路地を入りリパティを目指し、さらに蓬莱橋までの5kmコースと陸上競技場までの10kmコースです。普段、車でしか通らない道を歩いたり、知らない路地裏を散策すると新しい発見があったり、ここはこんな

風になっていたんだと妙に納得したり：ちよつとした冒険心もくすぐられる気がしました。皆さん「昔とは随分変わったね」などと思いで話が弾んでいました。身体はバテバテの方が多かったですが、みんなリフレッシュ出来ていいひと時だったと思います。健康な体を維持することを主眼におきつつ、「新たな発見を求め」仲間ウォーキングするのめい



## 編集後記

六合コミュニティ一大イベントの夏祭り、文化祭等・・・無事開催でき、記事にする事ができました。今年、終戦七十周年にあたる節目の年になることから、島田↓六合↓地域へと身近の戦没者慰霊を今一度振り返って思い出すきっかけになればと『終戦七十年』特集を載せる事としました。

広報部長 神戸正実